

## 型紙糊防染技法による藍染制作に参加して

県立八千代東高等学校 山田真梨子

7月26日に県立佐倉高等学校で、轡孝之先生による実技研修が行われました。

今回、型紙糊防染技法による藍染制作の研修が行われましたので、その様子をこのレポートで報告します。

まず始めに、各自用意してきたデザイン画を渋紙にスプレー糊で仮貼りし、デザインカッターで細部から切り取っていきましました。

デザイン画はあらかじめ用意してくるようになっていましたが、どのようなデザインが適しているのかアドバイスを頂きました。染まる部分（型紙として残す部分）、染まらない部分（切り取る部分）、つながりと色のバランスを考慮することが大切だということです。



切り絵としてバラバラにならないこと、わかりやすい形であること、デザインの中で広く空きができたところは弱くなってしまふこと、細かすぎると終わらなくなってしまふこと、これらのことを考慮しながら、自分のデザインを再確認しました。気を付けないといけないポイントが多く、図案を作成することの大切さを学びました。授業で題材として扱う際には、このことを生徒に理解させる必要があります。

生徒にデザインを考えさせる際には、最初から1つの図案を作成させるのではなく、なるべく多くのスケッチをさせ、個々の素材を切り絵的になるように組み合わせ、レイアウトすると良いそうです。

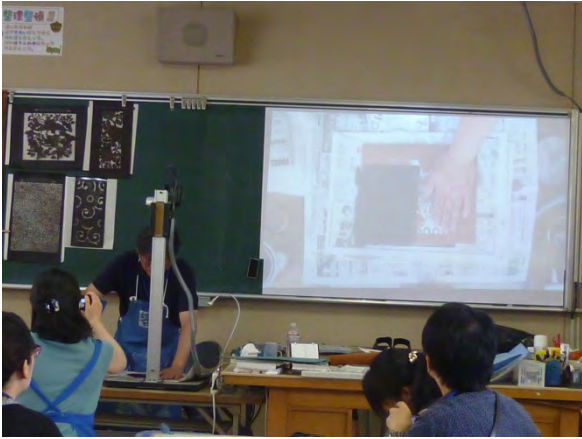
次の作業があるので、先生方集中してカッターで切り取る作業を行っていました。ですが、私は失敗をしました。切り取ってはいけない部分を切り取ってしまいました。生徒のような失敗をしてしまった！と反省し、補修の仕方を教えて頂きました。マスキングテープを小さくカッターで切り取り、紙同士をつなぎ合わせ何とか補修することができました。

切り終えた後、仮貼りしたデザインの紙を丁寧に剥がしました。剥がしたデザインの紙、どうすれば良いかと思っていたのですが、このデザインの紙を使いサンドブラストの制作も行わせて頂きました。轡先生がIKEAで購入されたガラス皿に、デザイン画に再度糊をスプレーして貼り込ませ、その上からサンドブラスト作業を行います。私はサンドブラストの機械を初めて使用したのですが楽しかったです。



↑機械は1台なので皆さん順番待ち中です。

近くにろくろが写っていますが関係ありません。



そして、紗張りの作業を行っていきます。轡先生の説明の後、作業が始まりました。

新聞紙を適当な大きさに切り、数枚を敷きます。今回は4枚敷きました。渋紙は表と裏があるので確認し、表が上になるように置きました。紗を霧吹きで湿らせて渋紙の上に仮止めをします。

これからの作業は共同作業です。カシュー塗料をまず右半分、次に左半分というように中心から刷毛で塗ります。塗り終わったら、紗の目のつまり

をティッシュを使い、下の新聞紙を換えながら取り除きます。1人が塗り、もう1人が新聞紙を換えます。これを繰り返します。

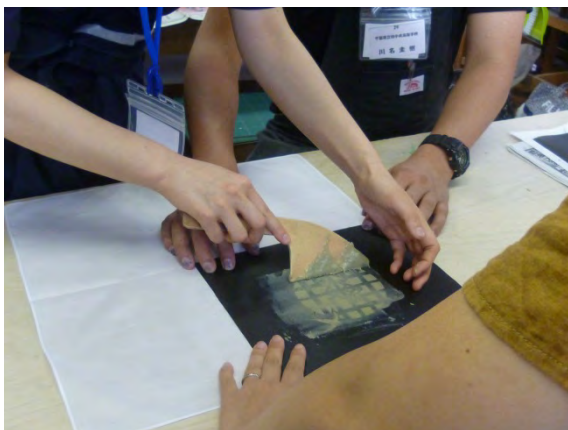
先生方、協力して作業を進めていました。生徒に行わせる際も、協力してやるよう指導したいです。ここまでの作業を午前中に終わらせるため必死でしたが、無事に終わりました。

午後からは糊を置く作業です。始めに轡先生が防染糊の作り方を説明しています。この研修では、最初からスクリーンを用いた説明で、わかりやすかったです。複雑な作業のある工芸の授業では、このような工夫が必要です。生徒も理解しやすいと思います。

糊を置く作業も共同作業です。染める布の上に型紙を置き防染糊をヘラで敷きます。糊を置く位置を決めるのですが、布にしわがあると上手くいかないで、アイロンでしわを伸ばしてから作業

しました。布の上に落とさないように、周囲を紙でカバーします。型紙を動かさないようにするため、2人位で紙を押さえます。この作業もやはり先生方協力しながら行っていました。

糊を置いた後は、乾燥棚で乾燥させました。十分乾燥させる必要がありましたが、時間がなかったためドライヤーも使用し、糊を乾燥させました。授業をやる際にいつも考えることなのですが、何かを乾燥させるなどの待ち時間をどのように使うかということです。今回はサンドブラストを行いました。授業時間内で、同時に他の内容を取り入れる工夫を考えていきたいです。





さて、いよいよ染める作業です。藍染料に浸し、その後染料から出し、空気中の酸素と結合させて青く染めます。まず轡先生にお手本を見せて頂きました。持ち手を換え干します。干している間に青くなっていきました。その後染めますが、繰り返し染料に浸すことで濃く染まりますが、糊は溶けやすくなっていくので注意が必要だそうです。

この研修では、2回染料に浸した人と1回染料に浸した人がいましたが私は1回にしてみました。糊が溶けてしまうことはありませんでしたが、もっと濃い藍色にしたかったので2回やっても良いと思いました。調整が難しいです。

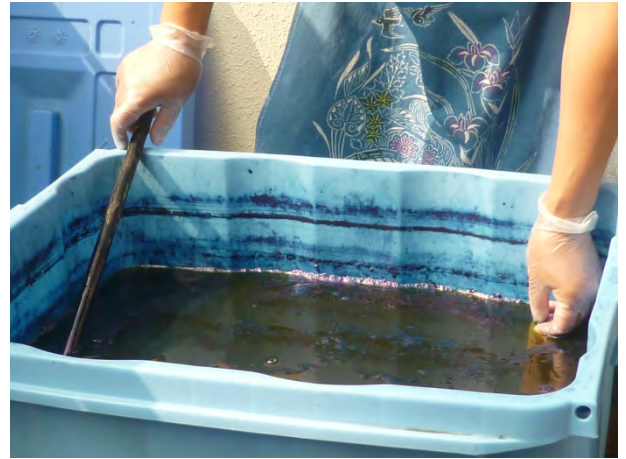
染色が終了し、よく水洗いをしました。藍染用の色止め剤に、染め終えた布を浸し5分ほど定着させました。その後、アイロンで色を定着させて完了しました。

何とか時間内に完成させることができました。今回初めて型染めの技法を学びましたが、すごく良い経験になりました。技法を実践しながら学べたことも収穫でしたが、1番の収穫は、私自身が楽しい！と思えたことです。作業の手順や内容に関しては何度か経験を積んで覚えていかななくてはなりません。実際に授業で行う際には、より生徒の視点に立った方法を考える必要があります。このようにまだまだ課題はありますが、研修を楽しむことができました。

授業のための教材研究をしていく中で、たまに楽しいと思う気持ちを忘れてしまうことがありました。授業という形をつくるだけで精一杯だったからだと思います。

この研修の中で、轡先生は、自分がおもしろいと思うことを授業でやった方が良くとおっしゃっていましたがそのとおりだと思います。今回の研修では多くの先生方と交流しながら、工芸(美術)を楽しむことができました。これからも私自身が楽しく、生徒もきっと楽しい！と思えるような授業を見つけていきたいです。

轡先生、本当にお疲れ様です。そしてすてきな研修をありがとうございました！



■事務局より

この件に関して、質問、相談などありましたら佐倉高校 嚮教諭までお気軽にお問い合わせください。